

「よせがき」 後藤靖香 Yasuka Goto

2008年7月8日(火)–8月15日(金) 12:00~19:00 日、月休

タマダプロジェクトコーポレーション (TAMADA PROJECTS CORPORATION)

都営大江戸線・東京メトロ有楽町線月島駅 7番出口右手奥へ 直進徒歩2分

オープニング:2008年7月8日(土) 18:00~20:00



後藤靖香 /Yasuka Goto

「寄書」 2008年、300x500cm

油彩、アクリルガッシュ、墨、キャンバス /Oil, Acryl Gouache, ink on Canvas

芋洗い、栗ごはん、よせがき、ダイゲンキデスといったタイトルが示すとおり、後藤靖香が描くのは戦時中の出来事、しかも、戦争で餓死した大伯父をヒーロー化し、その物語を綴ったマンガ風の巨大な墨絵(300cmx500cmのink on canvas)です。

「オジさんは私が作ったヒーローで、生きることを教えてくれた。生まれた時代、環境、戦争。それは、私たちとは違うようで似ている。不利でも、どうしようもなくとも、そこで生きていかなければならない。」そう語る後藤の作品は、あの悲惨な戦争と忌まわしいナショナリズムを、不連続性こそが日本近代美術の特異点とみなし、忘却の彼方へと押し込めていた我々の眼を釘づけにしてしまう、ただならぬ気配を放っています。

社会学者大澤真幸は、国民国家が、近代という時制の中で普遍性と特殊性が交錯したところから立ち上がってきたものだとして分析したうえで、それらを邁進させる資本主義の本質にある、絶対的な空疎を埋めるものとして現れたのが、ナショナリズムであると明示しています。しかも、冷戦後ますます勃興するナショナリズムの本性が、多文化主義にほかならないという、美術関係者が震撼する事実までもあぶりだしています。多文化主義を盲信し、アートをコミュニケーションツールとして多用してきた我々が、9.11以降、自閉的で趣味性という差異しか表現できないでいることこそが、人種なき人種主義なのです。

このような過酷な現実を前にするとき、蔓延している「ゆるさ」は、もはや、時代を映すものと認知することが不能となり、かわって、大画面を「生きていく」という筆致でかけぬける後藤の墨絵こそ、あらためて、このような環境下を意識し見られたとたん、ダイゲンキなのです。

後藤靖香 Yasuka Goto

1982 広島県生まれ

2004 京都精華大学芸術学部造形学科洋画家コース卒業

2007 TWS-EMERGING 2007 トーキョーワンダーサイト本郷、東京

2008 個展「芋洗い」野田コンテンポラリー、名古屋

第11回岡本太郎賞現代美術展 川崎市岡本太郎美術館、神奈川

“Yosegaki” Yasuka GOTO

Tue. 8 June – Fri. 15 August 2008 / 12:00 – 19:00 Closed Sun. & Mon.

at TAMADA PROJECTS CORPORATION (Tel. 03-3531-3733)

Opening reception: Tue. 8 June 2008 / 18:00 – 20:00